

🐣 おはようございます！突然ですが、お酒、特に日本酒を飲んでいる人はいますか？当然いはいはずですよ。二十歳未満の人が飲んだら犯罪ですからね。



先日、日本酒を頂きました。私は二十歳以上なので、飲んでも大丈夫。その日本酒、宮城県のある蔵元さんの造ったもの。ラベルには、カラフルなバトンがたくさん描いてあり、バトンを手渡している絵も描いてあります。「特別純米原酒3・11 未来へつなぐバトン」とか、「ハタチ基金」といった文字も書いてあり、気になったので調べてみました。

「ハタチ基金」のハタチは、文字通り二十歳や二十年、「葉たち」という意味があるところで、木の幹(子どもたち)が育つためには、葉(太陽の光を養分に変える)がどうしても必要。あなたも子どもたちを支える一枚の葉になりませんか、という思いを込めた基金なのだとか。

東日本大震災時に0歳だった赤ちゃんが、無事にハタチを迎えるその日まで、二十年間継続的に支援を行う基金なのだそうです。

この宮城県のある蔵元さんは、このお酒の売上金をなんと、全額！基金に寄付しているのだそうです。君たちのお父様やお母様で、

日本酒がお好きな方がいらっしやったら、是非、こういう日本酒があること、どうせ飲むのなら、このすてきな蔵元さんのお酒を飲んでいただけるよう頼んでくれるとうれしい限りです。

君たちの生まれる前の話。二〇一一年、その今から十五年前の三月十一日の午後二時四十六分、大きな大きな地震が起きました。地震で倒れた家からは火事が起こり、十五メートル(五階建てのビルくらいの高さ)もあるような津波が押し寄せ、原子力発電所からは放射能が漏れるような大惨事となり、たくさんの方が亡くなり、今も苦しんでいる方々が大量おられます。

ここ、引越した先の目白校舎ではできませんが、池袋校舎では、東日本大震災の翌年から毎年、三月十一日には半旗を掲げ、午後二時四十六分になると、亡くなった多くの方が天国へ召されるように、今もなお苦しんでいる人たちを忘れないように、チャペルのベルを鳴らしてきました。

今年も三月十一日を迎えるのにあたり、ある本(本の題名を忘れてしまいました。)に書いてあったエピソードを思い出しました。

東日本大震災の折、遺体安置所でお経をあげようと、訪ねてきたお坊さんがありました。お坊さんが見たのはたくさんのおおけと赤ちゃんの遺体を抱いて、涙も枯れ果てて、ぼう然としているお母さん。そのお母さんにお経

を頼まれました。日頃お葬式などでお経をあげているお坊さんです。いわばお経のプロ。そのお坊さんがお経をあげることができずに、母親のそばで、涙で声も出せず、ただただ手を合わせて祈ることしかできなかった。そうこうするうちに、不思議とその母親が落ち着きを取り戻したというエピソードです。

悲しみのどん底にある人に寄り添い、祈ること、ひたすら苦しみを共にするという姿が、その母親の心を動かしたのかもしれない。

お祈りをしたからといって、自分のおなか一杯になったり、問題がすぐに解決したりする訳ではないけれど、苦しみや絶望の中にある人たちのために祈ることで、ひたすら悲しみを共にする。ぼくたちは何もできない、ちっぽけな弱い存在だけれど、今、天災や戦争などで絶望的な悲しみや苦しみに耐えている人たちに思いを寄せて真剣に祈る。そうすると、何かが変わるかもしれません。あの赤ちゃんを亡くしたお母さんが落ち着きを取り戻したように…。

三月十一日、成績整理の日で君たちはお休みです。午後二時四十六分。今日の話を書いて、祈る気持ちになってくれる人が何人かいてくださったなら、こんなにうれしいことはありません。

(立教小学校校長 田代 正行)